


教員プロフィール

	<p>保育科 教授</p> <p>中野 隆 司 (なかの たかし)</p> <p>Nakano Takashi</p>
所属	保 育 科
学位	教育学修士 (慶應義塾大学)
資格・免許	高等学校教諭一級普通免許状 (社会) 取得 中学校教諭一級普通免許状 (社会) 取得
学歴・職歴	<p><学歴></p> <p>1981年 3月 慶應義塾大学文学部社会・心理・教育学科教育学専攻卒業 (教育学士)</p> <p>1983年 3月 慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻修士課程修了 (教育学修士)</p> <p>1987年 3月 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学</p> <p><職歴></p> <p>1986年 9月 北里看護専門学校兼任講師 (担当科目: 教育学) (1987年3月まで)</p> <p>1990年 4月 北里衛生科学専門学院兼任講師 (担当科目: 心理学) (1990年8月まで)</p> <p>1990年 4月 慶應義塾大学大学院社会学研究科嘱託 (平成6年3月まで)</p> <p>1990年 10月 山脇学園短期大学兼任講師 (担当科目: 教育心理学) (1991年3月まで)</p> <p>1991年 10月 横浜高等教育専門学校児童科・養護科兼任講師 (担当科目: 教育心理学、精神衛生、カウンセリングⅡ) (1992年3月まで)</p> <p>1993年 7月 慶應義塾大学通信教育部 (夏期スクーリング) 兼任講師 (担当科目: 教育心理学) (1993年8月まで)</p> <p>1993年 4月 山梨学院短期大学保育科兼任講師 (担当科目: 教育心理学、発達心理学Ⅲ) (1996年3月まで)</p> <p>1994年 4月 洗足学園大学・短期大学兼任講師 (担当科目: 教育心理学) (1996年3月まで)</p> <p>1994年 4月 慶應義塾大学文学部兼任講師 (担当科目: 教育測定実験、原典講読) (1996年3月まで)</p> <p>1995年 9月 慶應義塾大学通信教育部 (秋期スクーリング) 兼任講師 (担当科目: 教育心理学) (1995年12月まで)</p> <p>1996年 4月 山梨学院短期大学保育科専任講師 (担当科目: 教育心理学、発達心理学) (1999年3月まで)</p> <p>1996年 4月 山梨学院短期大学専攻科保育専攻兼担講師 (担当科目: 発達心理学特論Ⅰ、保育研究法) (2002年3月まで)</p> <p>1997年 10月 山梨大学兼任講師 (担当科目: 心理学) (1998年3月まで)</p> <p>1999年 4月 山梨学院短期大学保育科助教授 (2002年3月まで)</p> <p>2000年 9月 慶應義塾大学通信教育部 (秋期スクーリング) 兼任講師 (担当科目: 教育心理学) (2000年12月まで)</p> <p>2001年 4月 山梨大学工学部兼任講師 (担当科目: 幸福・福祉概論) (2018年7月まで)</p> <p>2002年 4月 山梨学院短期大学保育科教授、専攻科保育専攻兼担教授 (担当科目: 発達心理学特論Ⅰ、発達心理学特論Ⅱ、保育研究法 (現・教育研究法)) (現在に至る)</p> <p>2003年 4月 山梨県立看護大学 (現・山梨県立大学看護学部) 兼任講師 (担当科目: 教育学) (2010年9月まで)</p> <p>2016年 4月 山梨学院大学 (教職課程) 兼任講師 (担当科目: 子どもの発達と社会Ⅰ) (2018年9月まで)</p> <p>2020年 4月 山梨学院短期大学保育科 科長 (現在に至る)</p>

担当科目	<ul style="list-style-type: none"> 発達心理学Ⅰ、発達心理学Ⅱ、幼児理解の理論と方法、無意識の世界、基礎演習Ⅰ、卒業演習Ⅰ、卒業演習Ⅱ（以上、本科） 発達心理学特論Ⅰ、発達心理学特論Ⅱ、教育研究法、修了研究（以上、専攻科保育専攻） 	
専門分野	発達心理学、教育心理学	
現在の研究テーマ	保育科学生の学習観	
競争的資金等の研究課題	特記事項なし	
所属学会	日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本認知科学会、日本教育工学会、日本保育学会、日本保育者養成教育学会	
メッセージ	大学では自ら学ぶ姿勢がなければ実力は身につけません。生涯にわたって自律的な学習者となれるよう充実した、楽しい大学生活を送ってください。応援します。	
教育		
2020年4月～2021年3月		
教育方針	自律的に学習し、自ら考え行動する保育者・教育者の養成	
授業	授業の工夫	<p><無意識の世界></p> <p>多重人格や殺人事件の目撃証言の話など、学生にとってインパクトがあり、興味・関心を高める内容を取り上げるとともに、錯覚の実験など学生がその場で試すことのできる教材を用いている。</p> <p><教育研究法（専攻科）></p> <p>量的データの分析については、就職後に利用する可能性の高さを考慮し、エクセルを用いて演習を行っている。エクセルの習熟度の個人差が大きいため、自学自習できるようなテキストを選択し、各自のペースで学習を進めることとし、進度の速い学生は、遅い学生にコーチするよう指導している。</p> <p><上記以外></p> <p>専門的な内容も、現実の文脈に即して理解することが重要と考え、そのような目的に沿った視聴覚教材をどの担当授業においても数多く利用している。視聴した教材については、レポート課題したり、（少人数の授業では）視聴後に討議するなどその効果を確認している。</p>
	授業改善のための取組	<p>最新・今日的な話題を提供できるよう、適切な（視聴覚）教材の渉猟は常に行っている。また、狭い専門領域にとらわれず、関連する領域の最新情報を得て授業に生かすため、多めの関連学会に所属し、情報の収集に努めている（所属学会：日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本認知科学会、日本教育工学会、日本保育学会、日本保育者養成教育学会）。</p> <p>「教育研究法」を担当していること、また、ゼミの研究指導に活かすため研究法にかかわる研修についてはとくに積極的に参加している（例、2019年度「KH Corder を用いた計量テキスト分析（テキスト間インニング）実践セミナー」株式会社 SCREEN アドバンスドシステムソリューションズ主催）。</p>
ゼミ	ゼミ活動（卒業演習）（修了研究）	<p>本科の卒業レポート、専攻科の修了論文とも、とくに心理学にとらわれず、学生の希望を優先する方針である。</p> <p>一部の例外を除き、テーマが何であっても自らの手で「データ」を集めることを強く推奨している。したがって、研究手法（データの収集方法とその分析方法）について重視しており、本科・専攻科それぞれのレベルに応じて、指導・支援している。</p>

教育 (つづき)		
2020年4月～2021年3月 (つづき)		
ゼミ (つづき)	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼少期の体験と現在の性格との関係—短期大学生へのアンケート調査を通じて— ・ 夫婦仲が子どもに与える影響について ・ 子どものやる気を引き出す言葉がけについて—アドラー心理学を通して— <修了研究テーマ> <ul style="list-style-type: none"> ・ 泣いている子どもへの言葉がけについて ・ 過去の自分と現在の自分の変化について—自己肯定感に注目して— ・ セクシャルマイノリティ問題の現実と課題—当事者が現代の日本社会に求めること—
課外活動	特記事項なし	
2020年3月以前		
主な教育業績	<作成した教科書> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育に役立つ教育心理学 (分担執筆) (2005年: 大学図書出版) ・ 図で読む心理学発達 [改訂版] (分担執筆) (2001年: 福村出版) 	
研究		
2020年4月～2021年3月		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) 聞き手を惹きつける教師の話法について (共著) 秋山萌・中野隆司	2021年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻
(学会発表) 保育科学生の学外実習についての学習観と 保育者効力感との関係 (単著)	2020年5月	日本保育学会第73回大会

研究 (つづき)		
2020年3月以前 (主なもの)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(著書) 教育心理学－教育の科学的解明をめざして － (分担執筆：コラム14担当) (共著)	2013年5月	慶応義塾大学出版会
(著書) 教育相談－子どもの理解とカウンセリング (分担執筆：第2章担当) (共著)	2012年3月	大学図書出版
(著書) 保育実習指導のミニマムスタンダード－現場と養成校が協働して保育士を育てる－ (共著)	2007年9月	北大路書房
(学術論文) 世代による両親像の変化 (共著) 三澤綾香・中野隆司	2020年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第40巻
(学術論文) 小学校における教師と児童のほめ認知のズレについて (共著) 山本幸奈・中野隆司	2020年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第40巻
(学術論文) 保育科学生の学外実習についての学習観 －実習学習観尺度の試作－ (単著)	2019年3月	山梨学院短期大学研究紀要 39巻
(学術論文) 個別支援と集団支援を両立する保育者の技術～折り紙指導実践を通して～ (共著)	2018年2月	山梨学院短期大学研究紀要 第38巻
(学術論文) 青年期男女の同性友人関係 (共著)	2018年2月	山梨学院短期大学研究紀要 第38巻
(その他：研究発表) 保育科学生における保育科入学後の学習観の変化－大学での学習経験は学習観を発達させるのか－ (単著)	2017年5月	日本保育学会 第70回大会

社会貢献
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等
2021年4月～2021年3月
<研修会講師> ・放課後児童支援員認定資格研修講師（主催：山梨県児童館連絡協議会） ・系列校高大連携プログラム講師 ・放課後児童支援員認定資格研修講師（主催：山梨県児童館連絡協議会）（2015～現在に至る） <委員等> ・山梨学院生涯学習センター研究員
2020年3月以前（主なもの）
<委員等> ・社団法人全国保育士養成協議会専門委員（2003～2007年） ・社団法人全国保育士養成協議会『保育士養成研究』編集委員（2003～2007年） ・社団法人全国保育士養成協議会（HYK）児童福祉施設サービス第三者評価機関 福祉サービス評価調査者（2002～2006年（除2004年）） <学会誌査読> ・日本保育者養成教育学会『保育者養成教育研究』第4号（2020年） ・日本保育者養成教育学会『保育者養成教育研究』第2号（2018年） ・日本保育者養成教育学会『保育者養成教育研究』第1号（2017年） ・日本教育工学会『日本教育工学会論文誌』第39巻4号（2016年）
受賞 ※個人、所属団体
特記事項なし